岐阜県羽島郡笠松方言のアスペクト

久野　眞

Ⅰ．はじめに

（１）調査対象地：岐阜県羽島郡笠松町は、１６６２年に美濃郡代が置かれ、細かく所領地が分割された美濃一円を統括する中心であった。木曽川をはさんで尾張に向かい合い、桑名へは水路で十里という位置にあり、川港として栄えた。

現在は、名鉄本線で岐阜へ６分、名古屋へ２７分、人口は２１，５４３人（平成４年４月１日現在　笠松町町政要覧による）で、あまり増減はない。

産業としては、繊維工業・繊維製品製造が最も大きなものである。人口のおよそ１０％が繊維産業に従事している。

（２）調査年月日：１９９３年から１９９４年にかけて数回、’９４年８月９日に最終的な確認を行なった。

（３）話者：高島久右衛門氏　昭和２年１月８日生（６７歳）　味噌・溜醸造販売

（４）調査者・調査場所：久野眞、話者宅・岐阜教育大学

（５）調査方法：調査項目にしたがって順に質問を行なった。

（６）表記方法：話者は九代目高島久右衛門を襲名しており、江戸期より名字帯刀を許された家柄である。祖父の代から、味噌・溜（たまり）の醸造を始めて、三代目である。外住歴は、１年間、１７歳から千葉県柏市に住んだ。軍隊の経験なし。

Ａ．連母音アイ・アエはæ:となることが多い。オイ・オエはø:となることが多い。ウイをy:と発音する人は少なくなった。

Cæ:をエァー、ケァー、セァー…のように、Cø:をオェー、コェー、ソェー…のように、Cy:をユィー、クュー、スュー…のように表記する。

Ｂ．ガ行音は語中ですべて鼻濁音である。しかし、これを特には表記しないので、そのつもりで読んでいただきたい。

Ｃ．母音の無声化は、アクセントに影響を及ぼすほどではないが、C1VnC2Vw（C1・C2は無声子音、V1は狭母音、V2は非狭母音）という環境では無声化することが多い。ここでは特に表記はしない。

Ｄ．文末詞はガヤ（しばしばゲァーとも）、ワ、ナ（ー）、ナモ（古形）などが多用される。待遇によっても強調の程度によっても微妙に使い分けられる。ここでは適宜、文末詞も付けて示す。

Ｅ．アクセントは「「」（これより後は高い）と、「┐」（これより後は低い）で示す。この二つの記号に挟まれた部分が高いことを意味する。ただし、これはあくまでも音声的に表すものであって、音韻論的に有意味な場合ばかりではない。

たとえば、エダ「ガ┐　オレ「ト┐ルというような場合、エダは平板型で尾高型ではない。しかし、エダ「ガ┐とすることによって、次のオレ「ト┐ルが低く

始まることがよりわかりやすくなると思われるので、このような表記にする。

文で発音する場合と文の一部分だけを取り出して発音する場合とで、アクセントの高いところが異なることがある。そのときには、特に一貫させないで、それぞれの場合の状態をそのまま示す。

F．複数の回答が得られた場合には①②…のように示す。優劣・新古などについては適宜、「*」を付して注に記す。

G．例文でわかりにくいものは適宜、（　）に共通語訳をつける。

H．俚言その他については「*」の注で述べる。

II．調査結果

1．（昔は）よくいったものだね　①イッ「タナ┐ー／②イッ「ト┐ッタ「ナ┐ー

①の方が優勢。②はやや古い感じ。

2．（あのころは）おもしろかったなあ　アノ「コ┐ロワ　オモ「シロカ┐ッタ「ナ┐ー

3．（もうちょっとで）落ちるところだった　①「マーチョ┐イデ　オ「チ┐ルトコヤッタ／②オチ「ソ┐ーヤッタ

* 「もう」は、マーで表される。「マーチョ┐ットデとも。

4．（今にも）落ちそうだよ　オ「メァーノ　セァーフガ┐　ポ「ケ┐ットカラ　オチ「カケト┐ルゲァー

5．（財布を）落として　①「セァーフ┐　オ「トラケァ┐ーテマッテ／②オ「トェ┐ーテマッテ

* ①カスあるいはラカスは、使役の助動詞であるが、行為の失敗を表すときによく用いられる。ここでは、オトラカシテがサ行イ音便でオトラカイテになり、さらに連母音の融合で、オトラケァーテとなっている。以下同様の例は多い。「～てしまう」は、テマウが用いられる。②オトシテ（落として）はサ行イ音便で、オトイテとなり、さらに連母音の融合で、オトェーテとなる。

6．困っている　①オ┐ージョー　コェ┐ータ／②オ┐ージョー　「コェート┐ル／③コマッ「ト┐ル

* オージョー　コクは「難儀する」という意味。この文脈では、「困っている」は①でも②でも同じであるという。③はコマッタとは言えない。

7．（一本の蝋燭が今にも）消えそうだよ　ロ┐ーソクノ　ヒガ　キ「エカカット┐ルガヤ

8．（今）消えようとする（瞬間）　①キ「エ┐テマウ／②キエカカッ「ト┐ル

* ①のほうが寸前の感じがするという。

9．（完全に）消えた（瞬間）　①キ「エ┐チマッ「タ／②キ「エ┐テマッタ

* テマウよりチマウのほうが古い言い方という。

１０．（すでに）消えていたよ　キ「エ」チマットッタ
　　＊この文脈では「もう」に相当するマーはあまり使わないという。
１１．（何本もの蝋燭が順に）消え始めた　①「ジュンバンニ」　キエ「デァ」ータ／②「ジュンバンニ」　キエカケ「ト」ル／③「ジュンバンニ」　キエ「カカット」ル
　　＊キエデァータは「消えだした」の意味。サ行イ音便と連母音の融合で「出した」がデァータになる。
１２．（何本もの蝋燭が次々）消えて行くなあ　キエ「テクナ」ー
　　＊「～ていく」はテクの形になる。
１３．（何本もの蝋燭が順に）消えているよ　①キエ「ト」ルガヤー／②キエ「テクナ」ー
１４．（何本もの蝋燭が全部）消えているよ　①ゼ「ンブ　キ「エ」チマッ「タ」ガヤー／②ゼ「ンブ　キ「エ」チマッ「ト」ルガヤ
１５．（何本もの蝋燭の火を次々）消しているよ　「ジュンバンニ」　ケシ「ト」ルガヤ
１６．（もう全部）消しているか　「マー　ゼ「ンブ　ケシ「タ」カ　ミテ「リャ」ー
　　（もう全部消したか見てらっしゃい）
１７．（今にも桜が）散りそうだ　チリ「ソーヤナ」ー
　　＊岐阜県では断定の助動詞はジャからヤに変化しており、現在ではジャはほとんど聞かれない。
１８．（ちらほらと）散り始めた　ボ「チ「ボ」チ　チリ「デァ」ータ
１９．（今現に）散っている　①ド「ンドン　チッ「ト」ル／②チッ「チョ」ル
　　＊トルよりもチョルのほうが古い形で、現在でもに使う人があるというが、この話者以外では未確認。
２０．（桜の木がすっかり）散っている　①ゼ「ンブ　チッ「テ」マッ「タ」ガヤ／②チッ「ト」ル／③チッ「テ」マッ「ト」ルガヤ
　　＊この場合、①②③の差はないという。
２１．（地面一面に）散っている　ベッ「タ」リ　チッ「ト」ル
　　＊ベッタリは、ジ「メン　イッ「ペァー（地面いっぱいに）とも言う。
２２．今にも降りそうだ　①ア「メガ　キ「ソーヤ（雨が来そうだ）／②フリ「ソーヤ
２３．（あのときは今にも雨が）降りそうだったなあ　アノ「ト」キワ　「イ」マニモ　「ア」メガ　フリ「ソーヤ」ッタ「ナ」ー
２４．（あの時はもう実際に雨が）降っていたよ　アノ「ト」キワ　マー　フッ「ト」ッタガヤ
２５．（あの時はやがて夜が）明けようとしていたよ　ヨ「ガ　アケ「カカット」ッタナ
　　ー

２６．（来年の今ごろは家を）建てている（最中）　①イ「エ┐オ　タテ「カケチョ┐ルデ　「オンサ┐ッテモ　「ヨー　ゴッツォ　センゾ（家を建てかけているから来てもご馳走は出来ないよ）／②タテ「ト┐ルデ

＊理由を表す助詞デは動詞・形容詞の終止形に接続する。その他モンデ（もので）もよく使われる。「オンサ┐ルは「行く」「来る」「居る」の丁寧語・尊敬語。敬意の程度は個人差がかなりある。ここでは、キ「テマッテ┐モ（来てもらっても）とも言う。「～てもらう」は、テマウとなって「～てしまう」と同じ形であるが、アクセントで区別する。たとえば、「来てもらう」はキテ「マウ、「来てしまう」はキ「テ┐マウとなる。ちなみに、津軽弁ではハ行動詞の終止形がルで終わるので、「～てしまう」がテマルとなって岐阜・愛知の方言と共通する。

２７．（来年の今ごろは家をすでに）建てている　①イ「エ┐ン　タッ「ト┐ルデ／②タッ「チョ┐ルデ／③イ「エ┐オ　タテ「ト┐ルデ

＊①のイエンは「家が」の意味である。主格の「が」はンと発音されることもある。③のように「家を」と言うと共通語的な感じがするという。

２８．（あの家はよく）磨いてある　①ピカ「ピカニ　ミゲァータ┐ル「ナ┐モ／②ピカ「ピカニ　ミゲァーテ┐ゴ「ザ┐ルワ（ぴかぴかに磨いておられるよ）

２９．（隣の犬が）鳴いている　「ネァート┐ル

３０．（隣の子が）泣いている　「ネァート┐ル

３１．（こどもたちが）喧嘩している　コド「モンタ┐ー　ケンカ┐シ「チョ┐ル

＊「～達」を～ンタ（ー）と言う。

３２．（家に）いるかなあ　オ┐ルカ「ナ┐ー

３３．（○○さん）いるか　「オンサ┐ルカ

＊２６で述べたように、オンサルは敬語であるが、同等に対して、丁寧語として使う人もある。

３４．（ああ）いるよ　①オ┐ー　オ┐ルゾ「ー　「ヘァーッテリャ┐ー（おお、いるよ、入って来なよ）／②オ┐ルゲァー

３５．（そういう人も）いるよ　①オ┐ルギャー／②オ┐ルンヤデ

３６．（あなたは今何を）していたか　①「アンタ　イ┐マ　ナニ「シテリャ┐ータ／②「シトンサ┐ッタ／③シ「ト┐ッタ

＊①は目上に対しての言い方。イリャースは「行く」「来る」「居る」の尊敬語で、やや劣勢。②は同等以下に対して言うという。③は①②と比べると共通語のような感じ。

３７．（私は今金魚を）見ていたよ　イ┐マ　ワッ「チワ　キ┐ンギョ　ミ「ト┐ッタワー

＊ワッチは第一人称を表す。老年層の言い方。

３８．（金魚が今にも）死にそうだ　①キ┐ンギョガ　イ┐マニモ　イカ「レカカット┐ルガヤ／②シニ「カカット┐ルガヤ／③シニ「ソーヤ

＊①がもっとも方言的。②はやや共通語的。③は劣勢。

３９．（やっぱり金魚は）死んでいたよ　①ヤッ「バ┐リ　「シンデ┐マッ「ト┐ッタワ／②「シンド┐ッタガヤ

４０．読み始めていた　①ホ┐ンオ　ヨミ「カケト┐ッタ　トコ「ロ┐ヤガヤ／②ヨミ「カケチョ┐ッタ　「ト┐コヤガヤ

＊②は劣勢。

４１．読み始めたところへ（～た）　ヨミ「ハジメ┐タ　ト「コ┐エ　「デンワガ┐　ナッ「タ

４２．つくと同時に～した　ウ「チ┐エ　「ケァッ┐タト「タンニ

＊「帰った」は、自然な発音ではケァーッタがやや短呼化して半長音になったり、ケァッタとなることが多い。

４３．着くと同時に～してくれ　①ツュ┐ータ　ト「タンニ／②ツュ┐ータラ　（「ス┐グニ）

＊スグニは言わなくても意味は同じという。「デンワオ┐　ク「レともシ「ヨとも言う。

４４．鳴り続けている　①ナ「リ┐カラ「ケァート┐ルガヤ／②ズ┐ット　ナッ「チョ┐ル／③ナリ「ズメ

＊カラカスは動詞の連用形に接続して「～しまくる」の意味を表す。

４５．（先生は今何を）しているか　①ナニ「シテリャ┐ース／②シ「トンサ┐ル

４６．好きだ　ス「キ┐ヤ

４７．見られているのも　ミラレ「ト┐ルノニ　シ「ラ┐スト　イ「ネ┐ムリ　シ「トンサ┐ル

＊「知らないで」を、シラストと言う。

４８．（今、運動会が）ある　ウ「ンド┐ーケァー　ヤッ「チョ┐ルデ　ミテ「リャ┐ー（運動会をしているから見てらっしゃい）

４９．（降らなくて）よかったよ　ア┐メガ　フラ「ナ┐ンデ　ヨ「カ┐ッタ「ナ┐モ

＊ナモは、使う人が少なくなっている。もう一世代上では盛んに使われたという。ナモをぞんざいに、ナオ、ノー、ナーのように発音する人もある。

５０．（先生がこっちへ）来つつある　①オンサ┐ルノワ　ウ「チ┐ノ　カカ「リツケノセンセ┐ーヤ／②ゴ「ザ┐ル／③ミ「エ┐ル

＊①と②の敬意の違いははっきりしない。③は共通語という意識がある。コサッセルの形は使われない。

５１．（犬がこっちへ）来つつある　ク┐ル

５２．似ている　①ニ「チョ┐ル／②ニ「ト┐ル

５３．（一週間も前から遊びに）来ている　アソ「ビニ┐　キ「チョ┐ル「ヨ

５４．（昔から）苦労していない　ク┐ロー　シト「ラ┐ン

５５．（今はあまり）苦労しないでいる　ク┐ロー　シト「ラ┐ン「ヨ

５６．～は売っているが、～は売っていない　タ「バコー┐　ウッ「ト┐ルガ　イ「リョーヒンワ┐　ウッ「トラ┐ン

５７．（昔からタバコを）売っている　①ウッ「ト┐ル／②ヤッ「チョ┐ル

５８．（いま、大売り出しで衣料品を）売っている　ウッ「ト┐ルゼ

５９．（もう三回）来ている　キ「ト┐ル

６０．（いつも）来ている　キ「ト┐ル

６１．（昔はいつも）来ていた　キ「ト┐ッタ

＊キヨッタは、人によってよく使われるが、この話者は全く使わない。

６２．（前に一度）行っている　イッ「ト┐ル

＊この文脈では、イッ「タ┐コト　「ア┐ルワというほうが自然。

６３．先に行っておいてほしい　サキ「ニ┐　イッ「トッテチョ┐ー「ヨ　ア┐トカラボッ「テクデ（先に行っていてちょうだい、後から追って行くから）

＊ボウは「追う」の意。「おいかけっこ」をボーヤー（追い合い）と言う。

６４．待っていなさい　①マッ「テリャ┐ー「ヨ／②マッ「トリャ┐ー／③マッ「トッテチョ┐ーヨ

＊テルはトルより共通語的。テリャー・トリャーのような命令表現は、老年層では女性語の意識があるが、若年層では男女差はないようである。

６５．（外に）待たせてあるよ　オモ「テ┐ニ　マタセ「タ┐ルワ「ナー

＊「てある」と「てやる」はともにタルであるが、アクセントで区別がある。「てやる」の付いた分節のアクセントは平板型である。

６６．食べておいておくれ　ヒ「ト┐リデ　「ゴ┐ハン　タベ「トッテ

６７．（昔と）違っている　「デァーブン┐　チガッ「ト┐ル「ナ┐ー

＊笠松方言では、「赤くなる」はアコ「ナ┐ルのようにウ音便になるが、ハ行動詞のウ音便はない。

６８．（昔は今のと）違っていた　チガッ「ト┐ッタ

６９．（毎日梅干しを）食べている　ヒト「ツ┐ンツ　タベ「ト┐ルワ「ナー

＊ヒトツンツは「一つずつ」の意。

７０．（毎朝）している　「メァーニ┐チ　シ「ト┐ルワ「ナ┐モ

７１．気をつけていて（～した）　①「キーツケト┐ッタケド／②「キーツケト┐ッテモ

７２．行ったまま～　イッ「タ┐マンマ　「ケァッテコ┐エヘン「ガ┐ヤー（行ったまま

帰ってこないよ）

＊否定形はンからヘンに変わりつつある。センはあまり使われない。

７３．～しながら　①シ「ガ┐テラ／②シ「ナ┐ガラ

＊①のほうが方言的だが、①②ともに優勢。

７４．～の途中で～する　イキ「ガケニ

＊ユキ「ガケニとも言う。

７５．～の途中で～した　①ガッ「コ┐エ　イク「ミチデ　センセ┐ニ　「ア┐ッタ／②イク　ト「チューデ

＊この文脈ではイキガケニは言えない。イキガケニは一定の場所による場合に使うという。

７６．～の途中で止めて～した　①ホ┐ン　ヨミ「カケデ／②ホ┐ンオ　ヨム　「チュートデ／③ヨミ「サシデ

＊①がもっとも優勢。③はもっとも古い形。ヨミ「サシテとも。

７７．～したばかりだ　①「キンノ┐ー　ヨ┐ンダバッ「カ┐ヤ／②ヨ┐ンダト「コ┐ヤ

＊①のほうが優勢。

７８．無くなっている　「ノーナット┐ル

＊この場合は、～チョルは言えないという。

７９．無くなるぞ　「ノーナ┐ッテマウ「ゾ

＊ノーナルゾだけでは足りないという。

８０．掛けておいた帽子　①カケ「トェ┐ータ　ボーシ　ドコ　ヤッ「タ／②カケ「タ┐ッタ

＊②は通語的な感じがするという。

８１．並んだ本　ナ「ランド┐ル

８２．並べた本　①ナランドル／②ナラ「ベタ┐ル

＊①はざっくばらんな感じ、②は丁寧な感じがするという。

８３．～しておこうか　①「ヨンデコ┐カ／②「ヨンドコ┐カ

＊「ておく」と「ていく」の区別ははっきりしない場合がある。①と②は意味の違いはない。「置いておくよ」でも、オェートクワともオェーテクワとも言う。

８４．やってあるか　①ヤッ「テ┐マッ「タ┐ルカ／②ヤッ「タ┐ルカ

８５．壊している　①コ「ウェァ┐ーテマッ「ト┐ルガヤ／②コ「ウェァート┐ルガヤ

８６．壊れている　「コンナモ┐ンマデ　コワケ「ト┐ルガヤ

＊「壊れる」をコワ「ケ┐ルと言う。

８７．壊されている　①コワ「サレト┐ル／②コワ「サ┐レテマッ「タ┐ガヤ

８８．のけてある　ドケ「タ┐ル

８９．書き終わった　ケァ┐ーテマッ「タ

９０．書いてしまいなさい　ハ┐ヨ　「ケァ┐ーテマ「ヤ┐ー

９１．書いてしまう　①ケァ┐ーテマウ／②ケァーチマウ

＊①のほうが優勢。

９２．書いてみた　「ケァーテミ┐タ

９３．（孫は今）入院している　「ニューイン┐　シ「ト┐ルワ「ナ

９４．（弟も今）入院しているそうだ　「ニューイン┐　シト「ルゲナ

＊ゲナは伝聞を表す。「うわさ話」をゲナ「ゲナバ┐ナシと言う。

９５．（きっと）よくなるよ　キ┐ット　「ヨーナ┐ルデ　「シンペァー┐　シ「ヤ┐ー

スナ（きっとよくなるから心配しなさるな）

９６．（だんだん）よくなるよ　「ダンダ┐ン　「ヨーナ┐ル「ヨ

９７．歳とるとね、　ト「シ┐オ　ト┐ルト　ナオ「リ┐ガ　ワ「リ┐ーデ

＊「とっていくと」は言わない。あえて言えば、「とってくると」。

９８．なおらなくなるよ　ナオ「ラ┐ンヨーニ　「ナ┐ル

＊ナオ「ラ┐ンヨーニ　ナッ「テクともナッテ「ク┐ルとも言う。

９９．　（１）（犬が）怪我したので　ケ「ガ┐　シ「タ┐デ

＊待遇のヨルは観察されない。以下同じ。

（２）（こどもが）怪我したので　ケ「ガ┐　シ「タ┐デ

（３）（お父さんが）怪我したので　ケ「ガ┐　シ「タ┐デ

（４）（雨が）降ってきたので　ア┐メン　フッ「テ┐ッタデ

＊「降ってきた」はややぞんざいな発音あるいは早口ではフッ「テ┐ッタとなる。

１００．（１）降りつつある　Ｃ「すでに盛んに降り続いている、降っている最中である」

（２）増えつつある　Ａ「貯金が少しずつ増えようとしている」

（３）増やしつつある　Ｃ「すでに現にかなり増やしている最中」

Ⅲ．まとめ

（１）笠松方言のアスペクトの特色

岐阜県方言の調査をほとんどしていないので、あまり正確なことを書くことができないが、約６年間、笠松町に住んで近隣の人々となるだけ接触するようにして観察したり、学生たちを観察し、折に触れて質問して得た一般的な印象を記すことにする。

岐阜県方言では西日本方言と同じように、ヨル・トルの使い分けがあって、特に飛騨から東濃にかけては現在も、盛んに使われている。しかし、これらの地域でも若年層では区別がなくなりつつあり、トルに統合されようとしている。

飛騨ではヨル・トルの区別がもっとも明瞭であり、２０歳前後でもア┐メガ　「フ┐リョールとア┐メガ　「フ┐ットルを使い分ける人もいる。

西濃地方では、そのトルへの統合がもっと早く進んでおり、ヨルを使う人は老年層でも

少なくなっている。このような変化過程にある方言では、アスペクトのように微妙な内容については個人差が大きく、内省もよほど時間をかけないと困難である。そのうえで社会言語学的な調査が必要となろう。

今回は、時間的制約もあったが、西濃方言の話者としては、純粋な方を得られたので、あえて一人に絞って調査した。そのために、やや古い状態を観察することができた。特にトルは一般的に広く使われているが、チョルを自分でも言う話者は珍しい。ただし、西濃でも３０歳代以上にかなり残っているヨッタをこの話者は使わない。

ヨッタは「過去の習慣」を表すことが多いが、人によっては「過去の進行態」であるともいう。「過去の習慣」としてはヨッタが継続動詞に接続するだけでなく、アリヨッタの形もある。

岐阜県方言では、有情物の存在を表すのはオルであり、そのためにアスペクト形式もヨル・トルになる。最近では、共通語化によって、存在詞をイルと言う場合が増えているためか、アスペクト形式もトルがテルになる傾向がある。

（２）調査項目以外の特記事項

最初に述べたように、笠松町は郡代が置かれ、岐阜県になる前は笠松県であったこともあり、町民は周辺の地域に対してある種の優越意識がある。そのために排他的になり、発展が阻害されている面がある。しかし、これは言語が外因によってあまり変化しないという、方言研究者にとっては興味深い結果にもつながっている。

今回の話者は、よい家柄の長男であるために、ことばのしつけもきちんとしていて、敬語をよく使う傾向がある。しかし、そのためにそれぞれの敬語形式のもつ敬意は下がる傾向がある。

岐阜市周辺でも敬語や文末詞の地域差がかなりあるようなので、言語地理学的な研究も必要である。たとえば、羽島市あたりでは、京都・大阪のようなハルがあるようだし、ナモではなく、ナモシという発話も聞いたことがある。笠松町ではこれらは聞かれない。

連母音の融合が若年層でなくなりつつあるのは、どこでも同様であるが、岐阜県ではこれを細かく観察すれば、Cæ:→（Cja:→）Cɛ:→Ce:のような変化過程をたどることができるはずである。Cæ:、CØ:、Cy:は、質問されて、意識的にこれらの発音をすることができる人は少ない。とくに、CØ:、Cy:は難しいようである。

ガ行鼻音が衰退しつつあることも他の地域と共通するが、母音の無声化は東京方言ほどは目立たない。たとえば「靴」はク┐ツと無声化しないで発音される。年令差は明かではない。その他、助詞の意味用法、敬語体系の記述など、岐阜県方言の研究は課題が多く残されている。

（くのまこと・岐阜教育大学）